



# Nepal Blind Support Association

## ネパールの視覚障害者を支える会会報

第15号 2006年6月ネパールの視覚障害者を支える会 (NBSA)

NBSA HP : <http://at.sakura.ne.jp/~ilte/nbsa/>

主内容 : 2006年総会報告/揺れ動くネパール情勢/ネパールの暦/ネパールよもやま話/事務局だより

**2006年度NBSA総会報告特集号**



NBSA 講演会 (4月15日)

### 2006年度NBSA総会

ネパールの視覚障害者を支える会 (NBSA) 2005年度総会は、平成18年4月15日、鹿児島市かごしま市民福祉プラザ ボランティアセンター 4階活動室において開催された。会議の定足状況は、正会員73名、定足数37名に対し、出席者11名、委任状提出者41名の計52名で、定足数に達し、総会は成立した。

承認、了承等された議案は、次のとおりである。

#### 議題1. 2006-07年度役員等人事 (役員等改選)

会長 上田耕平      副会長 渥美資子 (前委員)      会計 上田佳代子

監査 中山須磨子

委員(50音順) 海老原利武、 大迫睦子、 串田芙美子、 中村英明、

西村希志子 (新)、 森山道成

顧問(50音順) 青山茂、 谷川昌幸 (新)

\*副会長渥美資子は引き続いてカトマンドゥ駐在員として、現地で活動する (新) は新任、無印は再任です。

#### 議題2. 2005年度事業報告と決算報告

##### 事務局活動報告概略

2005年

4月 鹿児島市において総会開催 (15日)

鹿児島市勤労者交流センター多目的ホールにおいてチャリティーコンサート

と講演の夕べを開催。

チャリティーコンサート・講演会は約 200 名の入場者で盛会であった。

- 5 月 NGO 技術者派遣制度にもとづき、JICA との覚書に調印。
- 6 月 鹿児島北ロータリークラブ、台北和平ロータリークラブ及びカトマンドゥ市パシュパティロータリークラブの白杖 2,000 本寄贈計画決定。
- 8 月 秋のスタディツアー募集開始
- 11 月 秋のスタディツアー実施 (11 月 1 日～11 月 10 日)  
鹿児島北、台北和平、パシュパティ 3 ロータリークラブの白杖 2,000 本贈呈式典 (カトマンドゥ市)。式典後、鹿児島北 RC 式典参加者のネパール旅行に同行。
- 2006 年
- 1 月 2006 年度 NBSA 総会、講演会の会場予約  
春のスタディツアー中止決定 (ネパールの政情不安のため)
- 2 月 鹿児島県内国際交流団体等意見交換会に参加

## 現地活動報告概略

### 事業の部

事業日	項目	活動内容	効果、成果など
2005 年 5 月中旬 ～ 6 月中旬	JICA 支援による技術者派遣プログラム	第 1 部：カトマンドゥ市内のアーリー・リハビリテーション・センターにおいて朝起きてから寝るまでの生活習慣訓練。 並びに青少年リーダー・シップ・トレーニング (対象年齢：中高等学校生徒) 第 2 部：ポカラ市内の盲学校において寮生に上記同内容の訓練。 第 3 部：同市内において、青少年リーダー・リーダー・シップ・トレーニング (対象年齢：大学生)	化粧、身支度、調理など楽しい内容で、参加者は熱心だった。 リーダーシップに置いては、日本の紹介も行った。
6 月中旬 ～ 7 月 4 日	コンピューター・トレーニング	カトマンドゥ市内 2 箇所。初級と中級。コンピューターに音声ソフトの導入方法、インターネット接続など (対象年齢：成人) これらすべての会場は他団体の無償提供によりもの。	個人宅に PC を持たない者が、インターネットカフェでネットが使えるようになった。
8 月	こどもの日クイズ大会	恒例事業 3 回目。カトマンドゥ盆地内の 4 校、中高等学校生徒対象、代表各校 2 名。1 位：キルティプル盲学校。	定例になりつつあるので、参加学校も協力的になった。(新聞報道)
8 月 ～9 月	点字講習会	点字プリンター講習会並びに出版物への準備。週 3 回 5 週間実施。	点字ボランティア養成
9 月	ピクニック	カトマンドゥ盆地ダキシムカリ。食事などすべて現地で作り娛樂性に富んだ障がい者福祉事業。他に聴覚障がい者なども参加。現地資金調達活動の一環であったが収益はあまりあがらず、その代わりボランティアも有料で共に楽しんだ会であった。	家族で参加がよかった。ボランティアの協調性が高まった。
10 月	点字印刷機講習会	2 国間による途上国支援スキーム。マレーシア盲人協議会からコンピューター 2 台、点字印刷機 1 台、技術訓練。日本点字図書館がそれらの資金援助。ホテルで 3 日間の集中講座。	NBSA の新事業の発端を開いた。当面は点字新聞など短い読み物中心。
11 月	① 交友レッキング  ② 白杖贈呈式	NBSA 恒例のスタディツアーの一環で、ネパールの視覚障がい者 2 名、並びに介助ボランティア 2 名参加。  申請から式典まで 1 年を要した事業。鹿児島、台北、カトマンドゥ市のロータリークラブの貢献によるもの。	社会啓発と日本・ネパールの友好  国際協力支援 ネパールの視覚障

		2006年内に白杖2000本が、ネパールの視覚障がい者に配布される。	ががい者へのサービスデリバリー
2006年 1月	点字出版物	国際点字の日に合わせて発行。内容はニュースのほか各種イベント、職業訓練紹介など情報共有をポイントにおいた。郵便事情の悪さで未着のところも多かった。	カトマンドゥ盆地以外でのサービス事業開始。
3月 18日	チャリティー・コンサート	ネパール支部発案の事業。視覚障がい者、他の障がい者多数観賞。娯楽性に富んだ福祉的事業であった。	現地資金調達活動の一環で、多少の収益をあげた。

#### 定例活動

2005年4月～2006年3月

カセットテープマガジン 発行 12回 トーキングブック（小説の音訳）52冊

点字ニュース発行 2回 NBSA ネット・ニュース（日本向け）11回（4月を除く）配信

会報誌3回ネパールより送付と会員向け暑中見舞いの発送1回

## 2005年度決算報告

### 2005年決算報告書 略

【監査結果】 中山須磨子会計監査役に監査を依頼した結果、2006年4月3日、決算書は敵影であることが認められました。

### 議題3. 現地事務所の費用負担（賃借）と現地雇員採用について

2006年3月26日付け、NBSA カトマンドゥ駐在役員渥美資子氏から提出された申請書に基づき当議題を検討した結果、妥当であると判断し、2006年度予算案に計上することとなった。

### 議題4. 2006年度事業計画と予算案

#### 事務局事業(活動)計画

社会福祉事業への参加と広報活動の充実  
鹿児島県内国際交流団体との連絡・交流の促進  
秋のスタディツアー実施  
ウォークマン収集 など

#### 現地事業計画 (順不同：予算案の順序)

##### 事業の部

ネパールの治安状況不安定なため、2006年の事業の日程は未定です。

- ① 視覚障がい児の親等への啓発セミナー  
カトマンドゥで過去に行った啓発活動と、親の会のレビュー・ミーティング。その他1箇所(クイズ大会と併用予定)
- ② 点字普及活動 カトマンドゥ盆地内  
(1日のオリエンテーションを行い、希望者へは長期講習会を開催。カトマンドゥのみ)

##### 準定例事業

- ① レクリエーション (候補：運動会、チェス大会、ピクニックより1点)
- ② 子供の日クイズ大会第4回 カトマンドゥ盆地、並びに地方都市1箇所  
(候補地：ピラトナガール又はブトワル)
- ③ 国際白杖の日 デモ行進に参加
- ④ 国際障がい者の日 デモ行進及びビラの配布
- ⑤ 国際ボランティアの日 ボランティア感謝祭の会食

##### 定例活動の部

- ① カセットテープマガジン発行 12回
- ② トーキングブック(小説の音訳)60冊 (カセット数推定300本)
- ③ 点字ニュース発行 隔月6回 (ページ数の増量と内容の充実化)
- ④ ウォークマンと点字本の貸し出し
- ⑤ 古着の随時回収と配送 (配布はネパール南部をターゲットにする)
- ⑥ NBSA スタディツアーの交友トレッキング参加 (未定)
- ⑦ NBSA ネット・ニュース(日本向け)10回配信
- ⑧ 会報誌3回送付
- ⑨ 会員向け暑中見舞いの発送1回

注釈；

1. 本年度は大きな事業を行わず、NBSAの活動目標のひとつである社会啓発、及び視覚障がい児の親等への啓発に絞る。
2. 定例活動の内容を充実させる。

カセットテープ・ライブラリーの音質の向上。長編小説の音訳化。  
点字マガジンのページ数の増量と内容の改良。  
ボランティアの固定化。

## 2006 年度予算書

### 2006 年度予算書 略

以上

#### NBSA 講演会開催

NBSA 役員(カトマンドウ駐在)渥美資子講師による NBSA 講演会は 4 月 15 日鹿児島市のかごしま市民福祉プラザ ボランティアセンター 4 階活動室において 2006 年度 NBSA 総会の後、14 時から開催されました。講演題目は NBSA 現地活動報告、JICA シニアボランティアとして 3 年間ネパールの社協に勤務して、ネパールの視覚障がい者の現状でした。講演会は NBSA 会員のほか一般市民の参加もあり大変好評でした。

#### 横浜市でも講演

NBSA 役員(カトマンドウ駐在)渥美資子さんは、横浜市金沢区のボランティア連絡協議会の招きにより、4 月 23 日午前 11 時 40 分より金沢区のいきいきセンター金沢において同協議会の講演会で講師として講演しました。

## 4月政変と和平の行方

ネパールの政治体制が、4月の「人民運動2063」により、国王親政から議会政治へと大きく変化した。この変化が「革命」となるか、「改革」とどまるか、それとも「叛乱」とされることになるかはまだ分からないので、ここでは「政変」と呼ぶことにする。

4月政変の直接の原因は、国王が2005年2月1日、政党政治を全面否定し親政を始めたことにある。国王は、泥沼化した人民戦争の親政による強権的解決をねらったが、これはをかえって紛争を激化させる一方、排除された諸政党や市民社会を反国王に走らせた。こうして、国王が強権化すればするほど諸政党はマオイストと接近し、ついに2005年11月22日両勢力間で「12項目合意」がなり、連携して国王専制を打倒し、制憲会議による新憲法制定を目指すことになった。

2006年4月6日のゼネストをもって開始された「人民運動2063」は、この「12項目合意」の具体化であり、外出禁止令の発令、大量逮捕・拘束にもかかわらず全国に拡大、デモ参加者は20、21日のカトマンズで10万人、全国では数十万人の規模に達した。

これに対し、国王は21日、行政権の「人民」への移譲を表明し、7政党に首相候補の推薦を提案したが、政党側はこれを不十分として拒否、25日に50万人の大デモを構え、権力の完全移譲を要求した。この頃になると、治安部隊によるデモ隊の制圧は困難になっており、結局、国王は24日夜、テレビを通して声明を発表し、7政党の要求通り議会を復活させ、28日に招集すると宣言した。7政党側は25日、この提案を受け入れ、ここに19日間に及ぶ「人民運動2063」は7政党側の圧勝をもって終結した。

この結果を受け、4月28日、4年ぶりに議会が再開され、30日には कांग्रेस党の コイララ党首を首班とする政党内閣が発足した。そして、5月4日には、停戦、マオイストのテロリスト指定解除、和平交渉の開始が発表された。

この「人民運動2063」の一連の成果を文書で確認したのが、次のような変更を含む5月18日の「代議院宣言2063」である。

- (1) 国家の諸権力と主権の唯一の源泉は人民。
- (2) 制憲会議による新憲法制定。
- (3) 1990年人民運動の成果を継承しつつ、2006年人民運動の成果を制度化し、成熟(full-fledged)民主主義を実現。
- (4) 新憲法制定までは議会が主権を行使。
- (5) 行政権は内閣にあり、内閣は議会に対し責任を持つ。
- (6) 軍の名称は「ネパール軍」とし、首相を議長とする「国家安全保障会議」が統制。
- (7) 王室会議の廃止。
- (8) 王位継承法は議会が制定。王室費は議会が決定し、国王の私有財産にも課税。国王の行為は代議院または法廷で審査可能。
- (9) 国家は世俗国家(secular state)とし、国歌(国王讃歌)も変更。
- (10) この「宣言」と抵触する憲法等の諸規定は無効。

以上のような変更は、憲法の根幹に関わる大幅なものであり「革命」といってよいが、今のところこれは新憲法制定までの暫定措置である。7政党とマオイストは5月26日、「25項目行動綱領」に調印し、制憲会議選挙、新憲法制定を目指すことになったが、「綱領」そのものにも強制寄付禁止、没収財産返却など実行困難なものが少なくない。また、新憲法についても、 कांग्रेस党は議会主権と儀式的君主制、マオイストは人民民主主義に近い共和制、統一共産党は両者の中間の立場を取っており、さらに国家世俗化など別の複雑な問題も加わり、調整は容易ではない。

幸い、7政党もマオイストも国連を中心とする国際社会の積極的関与に同意している。国際社会がこの要望に応え、停戦監視、選挙支援、財政援助など平和構築のための協力を惜しまないなら、10年に及ぶ人民戦争で疲弊し平和を切実に願うネパール国民が、どのような国家形態になるにせよ、和平を実現し、安定した社会生活を取り戻すことは、決して不可能ではないであろう。

(谷川昌幸)

## □今年のネパールの祭日

ヴィクラム暦 2063 年 （西暦 2006 年 4 月～2007 年 4 月）

ネパールには民族により様々な暦を使います。一番ポピュラーなのはヴィクラム暦で、公共の場で広く使われています。西暦はあまり用いられていません。今日はネパールの有名な祭日を紹介します。ネパールの祭日は宗教色が強いのですが、ほとんどが楽しいお祭り結びついているのが魅力のひとつです。これらはすべて占星術師が決めるので、毎年祭日が変わるとユニークなもの。  
（\*は秋の大祭ダサインです）

4 月 14 日	新年元旦。ビスケート祭（バクタプル市郊外に神に見立てた十数メートルの柱を立て、旧年の邪気を払う）
5 月 8 日	母の日（母の顔を見るために家族全員が集まる。母を亡くした人は池に写った母の顔を見て故人をしのぶ）8 月 23 日の父の日も同様。
5 月 13 日	ブッダジャヤンティ・釈迦誕生日（お釈迦様はネパール生まれ。今ではすっかりヒンドゥー教徒に押され気味ですが、ネパールの仏教徒が一番誇りを感じる日）
6 月 3 日	シティ祭り、雨期入り
7 月 7 日	国王誕生日ですが、今年も祝うのかは未定です
7 月 30 日	ナーガ・パンチャミ、蛇神祭
8 月 10 日	ガイ・ジャトラ（ネワール族の祭りで、お盆と同じ意味がある）
8 月 16 日	クリシュナ神誕生日
8 月 21 日	こどもの日 *毎年 NBSA はこの日に視力障がい児のクイズ大会を開催
8 月 23 日	父の日
8 月 26 日	ティージ（女性が夫や恋人の長寿を祈って断食する日。女性だけ休日）
9 月 17 日	クマリ（ネワール族の生きた女神）の山車巡行（カトマンドゥ盆地のみ）
9 月 23 日*	ダサイン初日（10 日にわたる年間最大の祭。初日は部屋の暗所に、平皿に大麦をまくガタスタパナ。10 日目にモヤシのような新芽をつみ取り髪に飾る）
9 月 29 日*	フルパティ（旧王宮で兵士は神の力を授かり魔を避ける儀式をする）
10 月 2 日*	勝利の日（戦いの女神ドゥルガーが悪に打ち勝った記念日。長老から祝福のティカをもらい、新品の衣類に着替え、肉を思いっきり食べて英気を養う。
10 月 21 日	ティハール初日ラクシュミー・プジャ（光の祭とも呼ばれ、家中に灯明を飾り富と繁栄をもたらす女神ラクシュミーを家に招き入れる。トランプなど賭け事 OK の日。この日は爆竹に要注意。
10 月 22 日	ガイ・プジャ（ミルクをくれる牝牛を供養する日。その前に神の使者カラスと天国の門番犬を供養する日がある）
10 月 23 日	ゴバルダン・プジャ（神の使いで人間の農耕を助ける牝牛を供養する日）
10 月 24 日	バイティカ（目上の女性から男性が祝福を受ける日。女性に謝礼の義務あり。
11 月 9 日	憲法記念日
12 月 6 日	女神シーターの結婚記念日（ジャナカブルのみ）
07 年 1 月 12 日	プリティビ王記念日＝国家統一の日（約 200 年ほど前にネパールは統一された）
1 月 23 日	シュリー・パンチャミ（学問の女神サラスワティーの誕生日。学生の人気者）
2 月 16 日	シヴァ・ラートリー（シバ神の降臨祭。ヨガの行者が大麻を吸って神に捧げる）
2 月 19 日	トリブヴァン王記念日＝民主主義の日
3 月 3 日	ホーリー満月（春を告げる水かけ祭の日。色水や粉をかけ合って 1 日遊ぶ）
3 月 18 日	ゴダ・ジャトラ（馬祭り。カトマンドゥ市内で軍人さんが競馬を見せる）
4 月 14 日	ネパールの新年、ヴィクラム暦 2064 年

## ネパールよもやま話 - 17歳のブッダの化身 -

ネパール南部バラ郡に仏陀（ブッダ）の化身がいるという。この少年は昨年5月から10ヵ月間、菩提樹の下で飲まず喰わず瞑想を続け世間の注目を浴びた。現場には連日この少年を、ひとめ拝みたいと野次馬を含め、大勢の信者が押し寄せ、少年は今年の3月忽然と姿を消してしまう。大規模な捜索の後、少年は案外近いところで発見されたが、「世俗的な見物人で瞑想が邪魔された」と釈明している。しかしこの逃亡話少し裏がある。なにせメディアが大げさに騒ぎたてて、少年の神格化が加速したのが原因ではあるまいか？ テレビ撮影や、科学的検証を求める医師が血液検査を要求したが、少年はこれを拒否した。少年は10ヵ月間、ブッダの伝説同様、これま

で「水も食事も一切とらずに瞑想してきた」とされるが、夜間にはその姿はシートで覆われており、実際の断食には疑問の声も出ていた。

では、ブッダの化身の教えはなんであったのか、手短かに触れると、これと言った教義はない。ネパールの平和を瞑想と断食で訴えたのだ。現に瞑想中にお経を唱えることもなかった。そこで世の中が平和になったら瞑想を止める、と言っていた。昨今平和が戻り始めた様子を見せているネパールであるが、まだまだ、と踏んだのかこの少年は今もバラ郡で瞑想を続けていると聞く。とはいえ、世間の目はネパールの民主化闘争が激化して、このリトル・ブッダの噂は一気にすっ飛んでいったようです。

### 事務局だより

#### 会長再任のご挨拶

上田 耕平

ネパールの視覚障害者を支える会（NBSA）会員の皆様には、ご清祥にてご活躍のことと存じお慶び申し上げます。2006年度総会で再び会長を仰せつかり、以前にもまして責任の重大さを感じております。既に報道等でご存知のように、現在ネパールは国王の親政から民政復帰したとはいえ、まだまだ前途多難ですが、さらなる本会の活動が期待されると考えております。微力ながら精一杯努めて参りますので、会員諸氏のご支援ご協力を心からお願いいたします。

#### 2006年度会費納入のお願い

4月1日よりNBSA会計年度2006年が始まりましたので、会員の方々に会費の振込用紙を同封させていただきました。納入後にこの会報を受け取った方はご容赦ください。運営費のほとんどが、皆様方個々の会費によるものです。途上国の中でも最も景気が低迷しているネパールへ、ご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

#### ウォークマン人気者！ 引き続き寄贈をお願いします。

皆様のご協力を得まして、ウォークマン数台が集まりました。これは学生に貸し出し、授業の補助教材、小説の録音にしています。それでもまだ台数が足りません。よろしくお願い致します。

Nepal Blind Support Association (NBSA)  
Yoriko Atsumi P.O.Box: 8974 PCN-111 Kathmandu, Nepal  
Tel: 977-1-4425-709 E-mail: [yorikonepal@hotmail.com](mailto:yorikonepal@hotmail.com)

《日本の事務局》  
〒890-0064 鹿児島市鴨池新町 27-1-1108 上田佳代子  
Tel & Fax: 099-258-6685 E-mail: [ilte@at.sakura.ne.jp](mailto:ilte@at.sakura.ne.jp)  
NBSA HP: <http://at.sakura.ne.jp/~ilte/nbsa/>

維持会費：個人会員年間 6,000 円 / 法人会員年間 15,000 円